

飯南

い
い
な
ん

議会報

第49号
平成29年4月20日

- 02 3月定例会報告
可決された主な議案
- 03 自治功労者表彰受賞
一般会計予算
- 04 特集 町議会を知ってください
- 06 一般質問
- 13 討論 採決の結果
- 14 常任委員会報告 議会活動報告
議会全員協議会の議題
- 16 明日を拓く



3月定例会終わる

3月7日から23日までの17日間の日程で開きました。

かねてから監査委員は、基金の管理方法を改善するよう指摘していた。このため、普通預金や定期預金として積み立てられていた基金を、預金口座に集約するなどの簡素化が図られた。

昨年度から、会計管理者が島根県の基金運用にならない、国債などの安全性が高い運用を行う管理方法へと移行したところ、平成28年度の基金運用益は9100万円余と過去最高になった。

近隣の市町も、基金運用により財政の維持に努めている。職員は基金運用技術向上に努め、町民へのサービスが低下しないよう努力することを期待する。

J Aしまねは、飯南町産もち米の引き受け数量を昨年よりも5000袋減らすと通告してきた。これは、生産過剰による在庫過多と販売数量が伸びる見込みがないため、生産量を減らすものだろうだ。しかし、奥出雲町産もち米の引き受け数量は増加している。

J Aによると「奥出雲町産は仁多米というブランド米で、飯南町産は普通の米」だそうだ。あらためて、ブランド化に向けた不断の努力の必要性を思い知らされる結果となった。

農業担い手支援センターを立ち上げ、農地の集積や組織の広域連携を進めるとともに、ブランド力強化への取り組みに全力で当たらなければならない。

請願

飯南町畜産振興に伴う堆肥センター整備に関する請願

〔請願者〕

代表 島根県雲南市木次町里方1088-6

島根県農業協同組合雲南地区本部

本部長 加藤博樹

〔審査委員会〕

教育経済常任委員会

〔審査結果〕

採 択

自治功労者表彰受賞

難波俊司議員が受賞



二月二十一日に開催された、島根県町村議会議長会定期総会において、難波俊司議員が、島根県町村議会議長会から表彰されました。

可決された主な議案

■ 条例関係

飯南町頓原拠点複合施設の設置及び管理に関する条例の制定など15件

■ 補正予算

平成28年度飯南町一般会計補正予算(第7号)など6件

■ 予算

平成29年度飯南町一般会計予算など7件

■ 諸議案

- ・飯南町の辺地に係る総合整備計画など4件
- ・公の施設(飯南町リース牛舎)の指定管理者の指定など3件
- ・平成28年度飯南町防災行政無線整備工事請負変更契約の締結
- ・在宅福祉利用料に関する権利(債権)の放棄など5件
- ・副町長の選任など2件

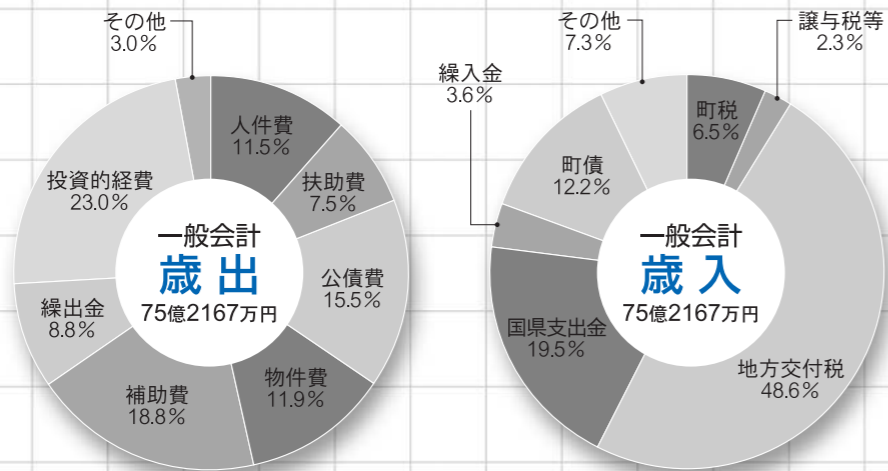
■ 報告

議会の委任による専決処分の報告

■ 議員提出議案

飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例

【平成29年度 一般会計予算】



一般会計・特別会計・病院事業会計の総額は **107億3772万円**

| 各 会 計 | 予 算 額 |
|----------------|------------------|
| 一 般 会 計 | 75億2167万円 |
| 国民健康保険事業 | 7億1290万円 |
| 後期高齢者医療事業 | 1億8280万円 |
| 介護保険サービス事業 | 3242万円 |
| 簡易水道事業 | 5億5453万円 |
| 下水道事業 | 4億 605万円 |
| 病 院 事 業 | 13億2735万円 |

議会報の訂正とお詫び
平成29年1月20日発行の議会報飯南(48号)中の3ページ中段3行目の平成28年度飯南町各会計歳入歳出決算認定は、平成27年度の誤りでしたので、訂正しお詫び申し上げます。

町議会を知ってください

現在、飯南町議会議員の定数は10人です。この議員は執行部から提案された議案に対して意見を述べ可否を示すのですが、議案は予算を伴うので、議会は町民のための貴重な財源をどのように効果的に使うのかを決定する重要な役割を持っています。

二元代表制の町長と議員

二元代表制と呼ばれる制度があります。これは住民が直接選挙で、首長(町長)と議会の議員を別々に選ぶ制度です。

町長は予算や条例などの議案提出や人事など幅広い権限を持っています。議会は議案の議決などで町長の行政運営を監視します。町長は議会から不信任を受けた場合に限り、対抗策として議会を解散できます。

両者は、より良い地域をつくるために、政策提案から執行までの政策過程全体にわたって、それぞれの特性を活かし、住民の声をしっかりと聞きながら切磋琢磨することで、個別の利益代表ではなく、地域全体の代表者としてあるのが本来の姿です。

「町民のためになるかどうか」を第一に、議論を重ねていくのが、両者の大切な使命なのです。



総務厚生常任委員会

議会の役割

議会は次のような役割を担っています。

1、住民を代表する機関

議員は、住民を代表する者として、地域のことや住民福祉の向上等に努めることがその主な役割です。

2、地方公共団体の意思を決定する最高機関

議会は、町長から提案される予算、決算、条例制定や改廃、町が締結する契約等を審議しますが、審議の場に町民の意見を反映させ、さまざまな意見を出し合い、その可否を決定する権限を持っています。

3、執行機関の監視機関

議会は、住民への行政サービス提供の最終決定者であると同時に、議会と執行部は、飯南町の発展と住民福祉等の向上のため、お互いに知恵を出し合い切磋琢磨することが求められます。

4、提言する機関

議会は、住民の代表であり、住民に一番身近な存在です。地域の状況と町の施策を確認・調査して議会で議論することも、条例制定や改廃等のほか議案の提案・修正などによる議会意思の表明などが出来るので、

向上に努めます。

■町民の代表にふさわしい、模範となるような行動に努めます。

これらは、実に当たり前のことなのですが、制定をしなければならぬという現状を、議員も町民の皆様ももう一度考えてみるべきです。議会議員の姿勢は「議会の役割」に照らし合わせるべきではないでしょうか。

町民の期待に応えるため、議員一人ひとりの使命を明確化し、議員としてとるべき行動を規定するために、私たちは今、議会基本条例の制定を目指しています。



教育経済常任委員会

町長に提言することで、より一層行政サービスの向上が期待できます。

5、地方自治体の内部機関

執行機関と議会は対等だと言われますが、飯南町を代表するのは町長です。

議会は、議論を尽くした上で議案を議決します。それを飯南町の施策として対外的に実行するのは町長であり、議会は、縁の下力持ち的な役割を担っています。

6、公益に関する機関意思を決定する機関

議会の重要な役割の一つとして、国の各省庁や国会等に対し、公益に関することについて、意見書を提出があります。

住民の代表として、住民の総意を背景に意見書の可決することとは、議会として、とても重要なことです。

議会基本条例への思い

議会はいま、自らの改革に着手しています。町の最高規範である「飯南町次世代につなぐまちづくり基本条例」制定に伴い、議会基本条例の制定を急いでいます。その主なものは、

議員の使命を果たすこと

■自らの資質向上に不断に努めます。

■この上で自由闊達な討議に努めます。

■自ら研鑽を深めるため研修に努め、まちの課題解決に資する提案を行います。

■一部の団体や地域にこだわることなく、町全体、全町民の福利



一般質問

3月定例会



内藤 真一議員

Q 家畜糞尿のバイオガス利用を進めよ

飯南町堆肥センターは、循環型農業を推進する目的で平成17年に整備した。

しかし、施設の老朽化等により十分に機能していないため、悪臭等の苦情が町に寄せられている。

家畜糞尿にメタンガス発酵菌を使いガスを発生させ、発電するシステムを提案する。

国は、バイオマス燃料の利用拡大に向け、バイオマス産業界に施設の整備支援を強化するとしている。

本町は、一昨年バイオマス産業界に認定されているので、再生可能エネルギー活用手段として導入の考えはないか。

A 大きな関心がある

町長 山崎 英樹

家畜糞尿のメタンガス化による活用には大きな関心がある。

岡山県のバイオガス発電研究施設を視察したが、収益を得るためには、原料の量的な確保が必要で、広域で取り組む必要がある。今後の参考としたい。

また、出雲エネルギーセンター廃止後の一般廃棄物処理については、今後10年間雲南エネルギーセンターを改修しながら使用する。経費上は、焼却処理が最も経済的であると報告を受けている。

今後のさらなる技術開発、民間企業の動き等も注視していく。



飯南町堆肥センター(塩谷)

Q 野見宿禰活用を

住民が中心になり地域活性化のために取り組んでいる、相撲の元祖「野見宿禰伝説」を本町の観光拠点として活用できないか。

また、野見宿禰赤名相撲甚句会の活動は、有形無形の魅力を全国に発信している。

これら地域の活動に込める為にも、広島県側の玄関口として、観光整備を検討してはどうか。

A 貴重な観光資源

町長 山崎 英樹

上赤名のスクモ塚古墳は、地元で野見宿禰の墓という言葉が伝えがあり、教育委員会が説明看板等を設置している。

来年には、野見宿禰相撲甚句会の尽力により、本町で相撲甚句全国大会が開催される。これに合わせ、より一層その魅力発信に努め、観光誘客に向けたストーリーづくりを進めたい。



スクモ塚古墳

一般質問

3月定例会



門 真一郎 議員

Q 儲かる水田農業の確立を

トランプ政権がTPP協定から離脱宣言し、個別協定によりさらに厳しい条件を突きつけられる恐れがある中、米の生産原価(人件費込み)が7000円前後という現状は極めて厳しい。政府は原価5000円を目標にしているようだ。今国会で主要農作物種子法の廃止が審議されているが、法の廃止で、自家採種による品質低下や遺伝子組み換え作物の増加が懸念される。

また、農協の広域化により大ブロックごとの単一管理しか出来ない状況になっている。本町の稲作を将来にわたって守っていくために、独自の研究機関を持ち、種子生産から米の販売にいたるまでの儲かる水田農業を確立する必要がある。

A 経営管理体制を強化する

町長 山崎 英樹

一町一農場の推進により、効率の良い生産性、資材の大口購入、農業機械利用の効率化、原価の削減・品質の均一化など、新たな視点を持った農業経営を規模拡大メリットで期待する。

本町の「土壌分析を重視して、継続的に米コンクールによる検証を行っている飯南町エコロジー米栽培の取り組み」は、月刊誌「現代農業」で高く評価されている。また蓄積された技術もある。

積み上げたものを活かした経営には司令塔が必要となってくる。管理部門をさらに強化、研究していく。



土改剤散布作業

Q 定住促進策の進化を

住みよいまちづくりは、そのまま住みたいまちづくりとなる。

U・Iターナー者が地域に溶け込むまでの間、助言や相談のついでに人材が不可欠だ。定住促進には補助金の多い少ないが重要ではなく、人の魅力が一番重要だと思う。

集落にはそれぞれ事情があり、U・Iターナー者の受け入れにも温度差があるようだ。体制が整っていると判断される集落から支援を行い、確実な定住を図っていく必要がある。

また、本町がどんな町かインターネットを通じて全国へ発信することが重要だ。

飯南高校報道部と雲南夢ネット飯南局に、広告代理店にはない発想と映像が話題となる定住促進PRビデオを作ってもらってはどうか。

A 調査と支援を行う

町長 山崎 英樹

新年度に意向調査を行い、集落の実態を明らかにする。その中で、定住の受け入れに對して集落の考え方も含めた調査内容となるように工夫したい。

既に体制が整っていると判断される集落に必要な支援を行いたいと思う。

情報発信用のPRビデオは、飯南高校生徒の視点で製作が叶うように努力したい。



一般質問

3月定例会



永井 章 議員

Q 寄付採納土地の有効活用

平成26年、本町へ土地と家屋の寄付採納があった。場所は、3月末に完成予定の「頓原拠点複合施設」近くだが、家屋の老朽化が激しい。
また、この土地については、町区自治区長より、「町長・議会に土地の有効活用を」「老朽化している家屋の撤去」「児童生徒の通学路の安全確保を」等の地域住民の不安を解消するためにも早期対応を要望するという内容の陳情が提出された。
連たん地の地域振興を検討するにも、建物撤去と土地の有効活用を図る事業策定が必要だ。



寄付された土地と家屋

A 実効性のある全体計画を策定

町長 山崎 英樹

土地を提供いただいたが、建物の老朽化が進んでおり、早期撤去は喫緊の課題だ。また、頓原地区の地域振興を検討する中で、土地の有効活用を図る事業策定は必要である。現在、「小さな拠点づくり」を具体化し、基本計画の素案を策定している。その中で町区からの陳情内容や、住みよい地域頓原会議からの要望を踏まえ、実効性のある全体計画を策定する。

Q 町政に女性の政策提言を

「基本目標と施策」に、政策・方針決定過程への女性参画を積極的に進め、男女それぞれの意見や能力が生かされた地域社会づくりを進めていく必要がある。
女性委員数の拡大、女性管理職登用の促進、人材育成などは成果が伺えるが、政策に関わる部分は具体的事例もなく、今後の課題だ。
「第2次総合振興計画」と「地方創生・総合戦略」計画推進には、女性の政策提言も重要ではないか。



A 意見反映の機会を増やす

町長 山崎 英樹

男女共同参画を推進する団体と連携し、啓発活動や女性参画の取り組みを進めてきた。成果も表れ、男女共同参画への理解は浸透してきている。
「女性活躍推進法」制定に伴い、今年度第2次飯南町男女共同参画計画を策定、女性の活躍を支援する「若者と女性の活躍応援事業補助金」を創設した。
女性が出かけやすい環境の整備や意見交換会など、女性の意見を取り入れる機会を増やす。提案には今後も努力する。

一般質問

3月定例会



伊藤 好晴 議員

Q 若者を戦場へ送るな

防衛省は、市町村に自衛官募集に協力するよう要請しているが、情報提供の方法を尋ねる。個人情報第三者に提供されることは気持ちのいいものではない。本人の同意や保護者の承諾を得る必要があると思うがどうか。
安保法(戦争法)制定前は、「国や国民の安全を守ること」が仕事のひとつとされ、他国の軍隊とともに戦争に加担する概念はなかった。現在は戦地での活動を了承した上での入隊ということになる。

戦場に若者が派遣され、他国の軍隊を助ける活動をする。人を殺したり、自らの死を覚悟したりしなければならぬ現実が待ち構えているということ、どのよう感じているのか。



自衛官募集ポスター

A 国防は国の義務

町長 山崎 英樹

住民基本台帳の写しを提供している。18歳に達する者の氏名、生年月日、性別、住所の4項目である。基本的に住民基本台帳法、そして自衛隊法にのっとり行っている。
武力で自分たちの主張を通そうとする人たちがいるのも現実である。国会でも議論されているが、国は高いレベルの判断のもとに動いていると思う。

Q 全国学力テストは廃止に

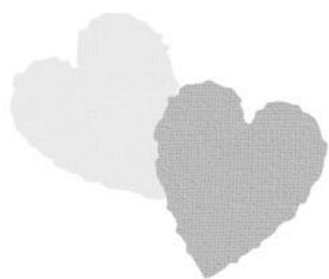
現在行われている全国学力テストは、過度な競争・序列化を招いている。子どもたちの実態を無視したテスト対策や、過去問練習、ドリルが押しつけられ、テストのためのテストが繰り返されている。学力をつけるためではなく、テスト対策そのものだ。本町内でも2校で行われた。
真の学力向上の道は、行き届いた教育の実施や教育費の無償化など、安心して学べる条件整備を進めることである。そのため、多忙をきわめる教職員の勤務環境の改善、経済的困難を抱え子育てに不安のある保護者への支援が必要である。

学力テストの点が教育の最重要課題であるかのように扱われる、そういう風潮が蔓延しているのが現状ではないか。全国学力テストは廃止すべきと考えているがどう思うか。

A 非常に懸念している

教育長職務代理者 烏田 勝信

学力調査は、学力の実態を把握し、次の指導に活かすというのだが、ちよつとおおしく、非常に懸念している。町内でも過去問練習の授業を行った。点数をなんとかして嵩上げしようということではない。
全国学力テストが無くても、島根県学力調査があれば、そんなに影響がないと思うが、学力というのは、なかなか点数に表れにくいところがある。



一般質問

3月定例会



長島 正一議員

Q 米の販売戦略構築を

転作政策や所得補償制度の全面廃止等、農業の平成30年問題が来年に迫り、中山間地域の持続的農業経営ができるか問われている。

国は、農業競争力強化プログラムを示し、農業の構造的問題を解決する必要があるとしている。すでに東北を中心に米の事前契約(複数年)が行われている。

また、全国的にブランド米競争が激化している。コメの販売戦略の構築を急ぐべきだ。

A 飯南町丸ごとアピール

町長 山崎 英樹

顔の見える販売に向け、広島等へ積極的に情報発信や都市農村交流を行い、飯南ファーム獲得に向け努力する。

町内の集落営農組織では、米が高値で直接取引され、経営が成り立っている側面がある。今後の町全体の米販売は、JAや集落営農の皆さんと相談し、方向を整理していく。

Q 水田農業の構造改革を

国は農業経費4〜5割の削減目標を掲げ、営農組織の広域連携や土地改良制度の見直し(費用負担なしの圃場整備)等の農業構造改革を推進している。

1、広域連携の考え方は、
2、用水路のパイプライン化等圃場整備により抜本的構造改革を推進すべきでは、
3、担い手対策である、収入保険制度の周知と加入支援の考えは、
以上、3点について問う。

A 農業担い手支援センターで対応

町長 山崎 英樹

1、一町一農場の推進に向け、「飯南町農業担い手支援センター」を立上げ、集落営農などの広域連携を進める。
2、土地改良後数十年が経過している。再圃場整備は、農家の意見を聞き、今後に向け整理する。
3、収入保険制度の詳細はまだまだだが、青色申告が条件となっている。詳細が判明後、周知に努める。

Q 高齢者住宅の建設を

集落の人口減少・高齢化に伴い、地域における相互支援機能の低下が懸念されており、安心・安全に暮らし続けるための環境を確保することが重要となっている。高齢者からは、「除雪負担や日常の買い物等に支障が生じ、冬期間のみでも利便性の良い場所での居住したい」との声がある。

町有地を活用して高齢者住宅建設の考えは。

A 具体的な策を考える

町長 山崎 英樹

人口減少・高齢化による地域運営機能の低下が、最大の課題だ。
住み慣れた地域で、安全・安心に住み続けることができる町を構築することが私の公約だ。
住民の安心が損なわれないよう、具体的政策を立案していく。



一般質問

3月定例会



高橋 英次議員

Q 赤名地区の「小さな拠点づくり」を

3月末に「頓原拠点複合施設」が完成する。来島地区では、新年度に拠点施設の基本計画が行われる。

こうした中、赤名地区でも、各集落の状況・子育て・農業・健康・医療・防災などの情報交換や、各集落に伝わる歴史・文化の伝承と交流を図り、地域全体で人材の育成に努めるなど、「協働のまちづくりの推進」を図るために、拠点施設が必要だ。

新年度には、赤名地区と志々地区において、デマンド型乗合タクシーや自治会輸送の実証運行が計画されている。こ



車の通行できない町道裏町線

れらは、拠点となる場所に存在する商業施設・医療機関・金融機関・行政施設などへの移動手段として、特に移動手段を持たない方には、大変喜ばれると思う。

しかし、現状は町道裏町線のように自動車も通れない、除雪もままならない所があり、町民の安心・安全な生活を守らなければならない。

町長が目指すところの「飯南町に暮らすことを幸せと実感できる町」「集落・地域を守る」の実現のためにも、核となる施設が是非とも必要と思うがどうか。

A 整備構想をまとめつつある

町長 山崎 英樹

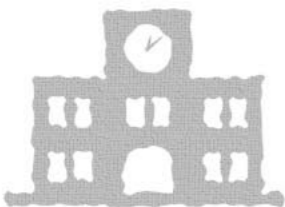
総合振興計画・総合戦略において、各地区での拠点機能を整備していく。

頓原地区は「頓原拠点複合施設」、来島地区は新年度において、拠点複合施設の基本設計を行う。

自治振興組織の事務所移転や手狭な状況での公民館活動など、不自由をかけていることは十分に承知している。

「小さな拠点」の形成に向け、行政において整備構想をまとめつつある。

拠点施設として一か所にまとめるのではなく、分散などいろんな姿、形を住民の皆さんにも参画していただき検討していきたい。





熊谷 兼樹 議員

Q バイオマス
産業都市構想は

本町は、平成27年にバイオマス産業都市構想の選定を受けている。その中で事業化プロジェクトとして掲げられている次の2項目について問う。
まず、温浴施設への薪ボイラー整備、冬季園芸ハウス加温装置整備、竹資源利用システムの構築とあるが、それぞれの現状と課題を問う。
もう一点、バイオガス発電と既存RDF施設の併用の可能性等を検討とある。可燃ごみを熱エネルギー、或いは発電用として利用するには、事業として継続できる規模の設備が必要であり、その量的確保も不可欠である。
ごみ処理の方法について、雲南市との合同処理の方向性が示されている中で、どのように確保を図るのか。

A 研究を進める

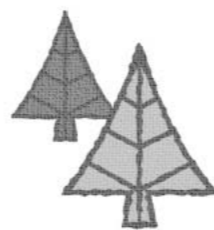
町長 山崎 英樹

温浴施設への薪ボイラー整備は関係者と協議したが、設置スペースの確保、維持管理、独特な温泉成分による設備の不具合発生等の課題があり、計画は休止している。
ハウス加温は、町内農家で町内企業が製作した燃焼器等の実証試験が行われ、成果と課題があり、今後改善を進めていく。



薪ボイラーの導入が検討された加田の湯

竹資源の利用については、前記の燃焼器の燃料として加工する計画があり、増産体制構築による竹チップの低コスト化に期待している。
可燃ごみエネルギー利用については、現在の出雲エネルギーセンターでの処理が平成33年度で終了することから、その対応を検討した。
その中で、分別破砕施設とバイオガス発電施設を整備し、可燃ごみ処理の効率化を提案したが、建設事業費やランニングコストが高額であることから現状では取り組めないという結果になった。



Q 病児保育の
検討課題は何か。

町長は所信表明の中で、病児保育について言及された。具体的な検討課題は何か。

A 早期開設に
努力する

町長 山崎 英樹

一つは人材確保の問題で、新たに人材確保センターを設置し努力する。もう一つは施設の場所、飯南病院付近を候補地としているが、検討課題がある。早期の開設に努力する。



飯南病院周辺

DEBATE

討論

農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例

農業委員会等に関する法律第8条の規定に基づき、飯南町農業委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定めるもの。
付則に、飯南町農業委員の選挙による委員の定数に関する条例を廃止する規定がある。

反対討論 伊藤 好晴 議員

農業生産力の向上と農業経営の合理化を図り、農業者の地位向上に寄与するという本来の役割を果たすために公選制は維持されるべきだ。

賛成討論 長島 正一 議員

農業委員の役割は、農地の番人から農地の流動化により集積や農地保全・維持が重要視され、役割は大きく変化している。町長の任命制により適任者を指名するべきだ。

平成29年度飯南町一般会計予算

反対討論 伊藤 好晴 議員

住民の安全と安心を確保することこそ飯南町政が最優先に行うことである。町政に求められるものは、暮らしを守る施策を抜本的に充実させ、国・県に対し町民の立場で発言し、行動することと考える。

＜売れる米作り事業＞

きちんと予算を付け、人も配置しブランド化を目指すこと以外に、米を前面に出して競争はできない。予算の是正を。

＜琴引スキー場臨時管理費＞

2シーズン連続の入り込み客減少に見舞われた。地球温暖化が進む今日、解決できない問題が発生する可能性は大だ。それに備えた対策が必要で、今回の増設は見直すべきだ。

そのほか農産物6次産業化支援事業など5件の事業をあげ、反対理由を述べた。

賛成討論 長島 正一 議員

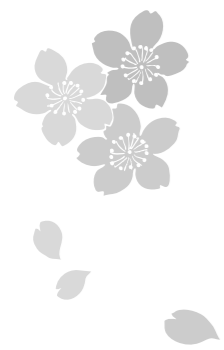
＜売れる米作り事業＞

注目する点では、農業の担い手支援センター構想、担い手会議の創設だ。重要な位置づけであり、出発点だ。

＜琴引スキー場臨時管理費＞

スキー場は家族連れの憩いの場として、全国的に復活の傾向にある。外国客にも雪は魅力のひとつとなっている。稼ぎ時に雪がないというのが現在の問題だ。導入によって経費が大幅に下がることと試算されている。

このほかの5件の事業に対し賛成理由を述べた。



[3月定例会]

全45議案のうち、反対等があった議案の採決結果は次のとおりです。

| 件名 | 結果 | 高橋英次 | 早樋徹雄 | 内藤眞一 | 熊谷兼樹 | 門眞一郎 | 長島正一 | 永井章 | 伊藤好晴 | 難波俊司 |
|-----------------------------------|----|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|
| 飯南町農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | × |
| 平成29年度飯南町一般会計予算 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | × |
| 飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ● | × |

○賛成 ●反対 ×欠席議員

請願の採決結果

| | |
|--------------------------|--------|
| 飯南町畜産振興に伴う堆肥センター整備に関する請願 | 全会一致採択 |
|--------------------------|--------|

第1回臨時会(2月8日開催)

| | |
|------------------------|--------|
| 固定資産評価審査委員会の委員の選任4件 | 全会一致同意 |
| 教育委員会の委員の任命 | 全会一致同意 |
| 平成28年度飯南町一般会計補正予算(第6号) | 全会一致可決 |

教育経済 常任委員会

委員長 長島 正一



選果場の視察

平成28年度 飯南町一般会計補正予算

円滑な運営を求める

酒造り交流館臨時管理費 4,440万円追加

税務署及び保健所の指導により、交流部分と売り場の分離を図ると共に製造量の増加に伴い製品保冷庫の設置及び2階倉庫に火災報知器を設置する。

この施設は住民のイベント等の交流施設であり、円滑な運営を求めた。

平成29年度 飯南町一般会計予算

人口降雪機5台導入

琴引スキー場臨時管理費 1億3,040万円

リフト、製氷機等メンテナンス1,400万円、スキー場人工降雪機第2期工事1億1,640万円が計上されている。人工降雪機5台の導入効果により、大幅な経費削減が見込まれている。導入に当たっては、現場との意見調整を促した。

住民の安全確保を図る

法面等災害防止事業交付金 7,570万円(新規)

住民の安全確保から町内法面落石箇所調査設計5か所や法面等落石対策工事3か所を行う。なお、落石予想箇所は、約70か所が想定されている。

平成29年度 飯南町一般会計予算

若者雇用創出に期待

創業支援事業 2,109万円

ビジネスコンテスト賞金、ビジネスマッチング支援等。新規事業では、新分野進出企業アドバイザー派遣事業90万円。

若者創業企業雇用創出事業1,000万円は、40歳未満の若者の雇用を創出した企業に、人件費や研修費を支援する。

対策の継続を求める

農作物鳥獣被害防止事業 1,980万円

予算に上限を設けるとの考えが示されたが、被害防止のために、集中的対策を続けるよう、また、ワイヤーメッシュや電気柵の管理を徹底するよう求めた。

米の販売戦略を促す

売れる米づくり事業 354万円

品質向上対策や飯南町産米PR対策費。新たな企画は飯南米生産現場見学体験ツアー。

ブランド力強化が必要なため、対策を促した。

また、「味度計(みどけい)」の導入を求めた。執行部からは、農業担い手支援センター構想により、担い手会議(JAしまね・農業委員会・雲南普及部・担い手組織等)を創設し、農地の集積や町内の組織連携を進める考えが示された。

総務厚生 常任委員会

委員長 早樋 徹雄



上赤名会館で説明を受ける

平成28年度 飯南町一般会計補正予算(第7号)

利子及び配当金 6,463万円追加

基金を債券で一括運用し、その結果、平成28年度運用益が9,130万円になる見込み。過去最も多い運用益である。運用方法を研究し、基金の有効活用が図られるよう求めた。

ふるさと応援寄付金 △6,200万円

ふるさと応援寄付金の減額で、3,800万円になる見込みである。大幅な減額となっており、原因の調査と対策を求めた。

衛生費貸付金元利収入 1,500万円追加

病院の円滑運営のために平成18年、一般会計から2億8千万円を貸付し、病院からは毎年1,500万円返済されているが、病院の経営状況が良いことから、本年度は倍額の3,000万円を返済するとの報告があった。信頼される地域病院として飛躍を期待する。

平成29年度 飯南町一般会計予算

携帯電話エリア整備事業 4,908万円

長谷地区の整備事業。あと4地区が不感地域として残る。執行部から投資効果に対する発言もあったが、早期整備を求めた。

平成29年度 飯南町一般会計予算

情報通信基盤整備事業 2,900万円

光ケーブル敷設実施設計予算。情報通信社会へ対応していくために早期整備を求めた。

来島拠点複合施設基本設計 500万円

少子高齢化の進行する中、「小さな拠点づくり」の意義は大きい。将来を見据えた施設となるよう意見があった。

町営バス購入費 871万円

デマンド型乗合タクシー実証運行が、赤名、志々地区で実施される。秋からの実証運行に向け、10人乗り車輛2台を購入する。よりよい交通体系の構築に努力を求めた。

上赤名介護予防拠点施設整備事業 981万円

上赤名介護予防拠点施設の多目的広場(駐車場)整備費等である。地域文化を生かして積極的な地域振興事業が展開されており、利便性向上に早期の事業執行を求めた。

生活支援体制整備事業 910万円

新しい介護予防・日常生活支援総合事業が始まり、生活支援コーディネーター3人の配置と活動費である。内2人は社会福祉協議会へ委託する。飯南町の地域包括ケアシステムの構築のために一層の体制づくりを求めた。

災害対策費 315万円

地域防災力向上のため、防災士30人の養成経費が計上された。積極的な養成を期待する意見が出された。

議会全員協議会の議題

2月8日

- ①地方創生拠点整備交付金の説明
- ②新教育委員会制度の説明
- ③中期財政計画の報告
- ④平成29年度予算要求の状況報告
- ⑤汚泥共同処理施設整備事業の進捗状況の報告
- ⑥ふるさと名物応援宣言の説明
- ⑦「石見銀山街道」日本遺産認定申請の説明
- ⑧平成29年度飯南病院医師体制の説明

3月8日

- ①副町長の選任
- ②神戸川の潮発電所水利使用に関する調整会議の説明

3月21日

- ①飯南町議会議員一般選挙の説明
- ②頼原拠点複合施設の愛称募集の説明
- ③飯南町医療及び福祉従事者確保対策助成金制度の説明
- ④町健康診査等のポイント券発行の説明
- ⑤平成29年度飯南病院診療体制の説明

3月23日

- ①神戸川水利使用に係る確認書の報告
- ②飯南町地域防災計画の変更報告
- ③公共施設等総合管理計画の報告
- ④赤名小水力発電所の今後のあり方検討の報告
- ⑤第2次飯南町男女共同参画計画の報告

議会活動報告 [1月~3月]

- 1 5日 議会広報編集委員会:委員会報告、紙面校正作業
- 8日 飯南町消防団出初め式
- 12日 議会広報編集委員会:紙面校正作業
- 19日 教育経済常任委員会:請願審査
- 30日 雲南地域議会議員連絡会議員研修会(奥出雲町)

- 2 3日 議会運営委員会:議会基本条例検討
- 8日 議会運営委員会:臨時会の提出議案、日程外の協議
臨時議会、議会全員協議会
- 16日 議会運営委員会:議会基本条例検討
- 23日 教育経済常任委員会:請願審査
- 24日 雲南広域連合議会2月定例会

- 3 7日 3月定例議会:本会議、町長提出議案の説明
- 8日 :本会議、町長提出議案の説明、質疑、委員会付託
- 13日 :本会議、一般質問
- 14日 :委員会審査
- 15日 :委員会審査
- 16日 :委員会審査
- 17日 :委員会審査
- 21日 :委員会審査
- 22日 :委員会審査、予算特別委員会審査
- 23日 3月定例議会:本会議、討論、採決・議会全員協議会
- 27日 雲南市飯南町事務組合議会定例会
議会広報編集委員会:一般質問要約作業
- 30日 議会広報編集委員会:委員会報告等要約作業

来年は全国相撲 甚句大会を 飯南町で開催

相撲甚句とは、相撲巡業の折に力士が土俵上で披露する唄のことです。この町に野見宿禰を縁にと立ち上げた「野見宿禰赤名相撲甚句会」は、来年10月に全国大会開催を誘致されました。人気の高い大相撲の始祖としての情報発信が期待されます。

甚句会発足の経緯は

会長 赤穴 憲一さん(下赤名)
大麻蹴速(たいまのけはや)との戦いに勝利し、日本一の力士となった相撲の元祖、野見宿禰のみのすくねゆかりの地が飯南町の上赤名であることを基にして甚句の会を立ち上げ、現在会員数は11人です。
平成30年には、第11回全国相撲甚句大会が本町で開催されることが決まっています、約200人の関係者の来町があると見込まれます。



赤穴 憲一会長にインタビューする高校生

平成23年2月に設立し、これまで59回公演を行ってきましたが、創立10年程度の会が全国大会を受けるのは初めてということなので、万全の体制で臨み成功させたいものです。

今後の夢は

叶うものならば、新横綱「稀勢の里」の奉納土俵入りが両国の野見宿禰神社で行われる時、我々も甚句を奉納したい。また、神社に本町の大注連縄を奉納できれば最高です。そうなれば前夜祭に国技館の大舞台で甚句を披露することが出来るかもしれないですね。
町民の皆さんには、野見宿禰のような偉人が本町にいたことを知ってもらいたい。宿禰の顕彰碑や土俵を作って相撲文化の再興を図りたいものです。
また、地方巡業で、本町で大相撲の開催が出来れば最高だと夢を広げています。

岸 光研さん(頓原) 甚句会との縁は

銀山街道を訪ねる会にも参加していますが、旧町の頃から行政の枠を超えて交流を図っています。社会貢献をすることで地域との関係を深め、仕事をさせてもらっているという思いがあります。
毎月2回の練習を行っています。冬以外には山根先生に指導をいただいています。最近では年10回位出演の依頼があり、出張公演に行きます。
来年10月の全国大会を目指し、1年かけて大会の準備と声に



岸 光研さん

磨きをかけていくつもりです。大会開催中は町中の人に甚句を聞いてもらい、楽しんでもらいたいと思います。
趣味としても楽しいので、頓原や志々の皆さんにも入会してもらい、一緒に甚句を楽しめるようになればよいと思っています。

今月の表紙写真



静かな町に、相撲甚句の発声が会場に響き渡っていました。この日の練習は、指導の先生を含め10名。来年この町で開催される全国大会に向けて、それぞれが持つ音域のクオリティを高めるために切磋琢磨されています。腹の底から発声する甚句は健康にも寄与するとあるようで、会員の顔色はとて素晴らしい感じで輝いていました。子どもは町の宝ですが、新しい宝として「おじさん」「おばさん」たちの活躍が期待されます。

編集後記

TPP問題は一難さってまた一難という状況ですが、農家の所得向上に向けて不断の努力が求められています。今までもおりの日々を送っていても農業を取り巻く環境が好転することはありえません。農家自身が目のうることを自ら剥ぎ取る勇気が必要です。心空しくしてもう一度考えようではありませんか。

この広報が皆さんの手に届くころには、田植の支度に忙しくされていることでしょう。この田植という作業は何世紀も前から当たり前の農村風景であり、手から乗用機械に変わっただけのわずかな変化があっただけです。

これから農業は、この当たり前すら白紙にして一から考え直す必要に迫られることになるかもしれません。
どのような変化が訪れようとも、われわれ議員は町民の皆さんに寄り添ってまいります。

これからもご指導ご鞭撻いただきますようお願いいたします。

議会広報編集委員会 門 眞一郎